

教育ボランティア ニュースレター

第19号
発行日 平成28年 11月

ひとにとっての健康とは？病気とは？ —教育ボランティアさんの語りから考える—

看護学原論Aとは？

看護学原論Aは、1年生前期に開講しており、その目的は「実践の学びとしての看護学を、その成り立ちと本質、人々の健康と取り組みへの支援、社会的観点から概観し、導入としての基礎看護学の理解を深めること」です。学生が入学して初めて看護について学ぶ授業であり、講義やグループワーク等を通して、看護とは何か、看護師とはどのような役割を持つのかを考えていきます。

「教育ボランティア」は、現在も募集中です。お友達やご近隣の方をお誘いいただき、是非学生の教育にご協力ください。

ご登録希望やお問い合わせは、神戸市看護大学地域連携教育・研究センター：古谷（TEL：078-794-8080 代表）までお願いします。

編集・発行
神戸市看護大学
地域連携教育・研究センター
運営委員会

看護学原論A

平成28年6月9日（木）1限目に2名の教育ボランティアさんにお越しいただき、1年生95名に「患者に聴く“私の病気体験”について」をテーマに、お話をさせていただきました。この授業では、本学に入学して2か月の1年生が「ひとにとっての健康とは何か。病気（病むこと）とは何か。」について考えられることをねらいとしており、お二人のお話と事前に読んできた闘病記をもとに、グループワークを行い発表しました。

教育ボランティアさんには、ご自身の病気の経過だけでなく病気を経験することで辛いと思ったこと、よかったと思えたこと、そして、ご自身の考える健康について語っていただきました。この時期の学生は、まだ病気の知識や実際の患者さんのイメージもほとんどなく、「健康とは病気ではないこと」であり、「病気に対しては暗いイメージ」しかなかったようです。しかし、お二人の話を聞いて「病気になってもとても前向き」「病気になっても楽しみや生きがいをみつけて生活している」こと、しかし、辛い時には「家族や医療者の支えも大切である」ことを感じていました。さらに、発表では「何が健康かは年代や個人によって違う」、「健康とは居場所や生きがいがあること、病気の有無に関わらず人生を楽しむこと」、「患者さんは治療の選択ではなく、生き方の選択をしている。看護師は病を治すだけでなく患者が決めた生き方を支えていくことが大切」という意見が出ていました。

教育ボランティアさんが語ってくださった言葉をしっかり捉え、その意味を深く考えていくには、まだまだ未熟な学生たちですが、自分とは異なる年代、異なる経験をしてきた方の話を聞くことで、自分にとっては当たり前と思っていた「健康」について考えることができ、その捉え方の視点も広がったのではないかと思います。本事業に協力いただいたお二人に感謝いたします。

（文責：基盤看護学領域 基礎看護学分野 玉田 雅美）



【看護学原論A 授業の様子】